

2025 年 7 月 16 日

豊丘村長 下平喜隆 様

豊丘村の水を守る会

共同代表 栗澤左門
共同代表 原 章
共同代表 壬生真由美

水源地である本山を要対策土で汚染しない判断を要望します

私たちは、毎日豊丘村内の水を飲み、生活に使っています。人は、水がないと生きられません。私たちは、豊丘村の水がいつまでも安心して使えることを願っています。

5 月 21 日に本山の残土置き場にヒ素混じりの有害残土(要対策土)を置く計画の説明会が村民対象に行われました。説明された JR 東海の計画は、村民が利用する水への危険性を高めるものであり、絶対に受け入れられません。

私たちが強くそのように考える理由は以下のとおりです。

- 1 **本山は、残土置き場として保安林が解除されたとはいえ、元々が水源涵養林**です。現在もその周りは広大な水源涵養林であり、本山も含めこれらの水源地から、これからずっと村民が使う水が流れてきます。そうした大切なところに敢えて危険なヒ素を置くことは無謀でしかありません。
- 2 私たち豊丘村の水道水の 96%は本山も含め豊丘の山地から地下水となって流れ下ってくる水です。有害残土を投入する計画が実行されると水道水がヒ素に汚染される危険が高まります。また、有害残土置き場からサースケ洞、虻川へとヒ素が流れ出れば虻川の下流で左岸右岸ともに用水路へ流入し農業用水や生活用水も広く汚染します。
- 3 JR 東海は、有害残土を不溶化・固化し、被覆シートで全体を覆って処分し溶け出すことはないと言明しました。しかし、不溶化や固化の処理は不完全で**永続的ではありません**。被覆シートは、風雨にさらされ年月がたてば劣化して効果は落ち、やがてヒ素は流出する危険があります。
- 4 JR 東海は、不溶化の持続性確認(屋外暴露試験)を説明する際に細かなデータを示しませんでした。また、雨水は空気中の二酸化炭素が溶け込んで通常は酸性側に傾くはずですが、試験時の雨水の pH が中性の「pH7」と答えるなど、その**試験結果と説明は信用できるものではありません**。
- 5 本山に有害残土を置かれれば、そこは汚染土壌投入地となり、未来にこの村に住む人たちは、有毒なヒ素とずっと向き合い影響を受けることとなります。有害残土のヒ素が**いったん漏れ出せば、除去することは不可能であり、水環境の汚染で生活基盤が破壊されます**。
- 6 本山地縁団体では、地方自治法では認められない総代会による決議により重要事項が決められるなど、不適切な運営がなされています。法律に基づかない**総代会において決議されたことは、組織決定として無効**(長野県南信州地域振興局の見解)であると共に、将来の村の水源に**重大な影響を及ぼす決定を、一地利縁団体の決議に委ねることは、大変危険であり、村民にとって納得のいくものではありません**。

以上の理由から下記について強く要望します。

記

1. 現職の村長として、村の将来に禍根を残さない「JR 東海要対策土本山
処分計画 STOP」の判断をすること

以上